

学校法人都築育英学園
福岡こども短期大学
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

福岡こども短期大学の概要

設置者	学校法人 都築育英学園
理事長名	都築 明寿香
学長名	都築 仁子
ALO	松澤 洋
開設年月日	昭和50年4月1日
所在地	福岡県太宰府市五条3-11-25

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
こども教育学科		350
	合計	350

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

福岡こども短期大学は、評価を行った時点では下記事由に示す問題点が認められる。ただし、本協会は、当該短期大学を設置する学校法人の改善意思及び改善計画を確認したので、機関別評価を保留とした。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 21 年 6 月 17 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準の一部を満たしていないと判断した。

当該短期大学を設置する学校法人の財務体質は極めて厳しい状況にあると認められる。その改善は急務であり、抜本的な財務の改善計画が必要である。

上記以外については、おおむね次の事由により短期大学としての水準を有していると判断した。

当該学校法人の建学の精神は、「個性の伸展」という学園創立者の言葉として明確であり、教育目的は学則はじめ諸文書に明記されている。

当該短期大学は幼稚園教諭と保育士養成の課程を持つ短期大学として、教育課程は適切に整備されている。その上で「個性の伸展」を実現し、主体性を発揮するための選択科目も用意されている。保育士養成の専門教育に非常に熱心に取り組んでおり、随所に創意あふれる取り組みがみられる。教育内容と評価方法は、統一した書式でシラバスに提示されており、分かりやすく情報が提供され、評価方法についてもおおむね良好といえる。

当該短期大学の教員組織は整備されており、教育環境も整備され、活用されている。広大なイングリッシュガーデンは、他校にはない優れた教育環境である。教員数は短期大学設置基準を充足しており、年齢構成もおおむねバランスがとれている。

教育目標の達成度を測定するために、試験、作品、レポート等の方法が適切に活用されている。また、学生アンケートを利用して、一人ひとりの学生に対するクラス担任と地区アドバイザーによる丁寧な指導が行われている。さらに、卒業生に対する就職先からの評価アンケート、同窓会との懇談会等、就職先、卒業生からの評価を在学生の教育に生かす努力が始められている。

学習支援、学生生活支援及び進路支援は、クラス担任と地区アドバイザー等によって十分に個別指導が行われている。

研究は、教育実践に基づき毎年刊行される研究紀要に発表されている。

生涯学習及び子育て支援を目的とし、地域に開かれた公開講座を実施している。公開講座の内容も豊富であり、当該短期大学の専門性が生かされている。学生は 2 年間の幼児教育研究会活動を通じて、地域行事に積極的に参加し、地域住民との触れ合い

を密にしている。

当該短期大学の管理運営は、諸規程に基づいて行われている。学長のリーダーシップは発揮されている。また、理事長と学長との意思疎通は良好である。教授会は規程に基づいて定期的に行われている。

自己点検・評価を遂行する「自己評価委員会」が組織されており、自己点検・評価活動の実施体制は確立している。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

○ 建学の精神は、学内の随所に掲げられ、学生や受験生にも分かりやすく提示されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

○ 教育内容と方法については、実習の打ち合わせや保育内容検討会において意見交換をしている。特に幼児教育研究会にみられる各学生の得意分野（一芸）を伸ばすシステムの導入は、特徴的な取り組みである。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

○ 幼稚園教諭免許状と保育士資格を取得できる単科の短期大学であるため、教員相互の意思疎通が図りやすく、幼児教育者の養成という共通の教育目標に向かって協力して取り組んでいる。

評価領域Ⅴ 学生支援

○ クラス担任及び地区アドバイザー等を設けることで、様々な学生に対応できる体制をとっている。また、基礎学力チェックテストの実施など、基礎学力不足の学生

に対する支援体制は充実している。

- アドミッション・オフィス（AO）入試において、保育者としての適性を判定するために、独自に開発した「保育者カード」を活用している。
- 自然環境保護に特に配慮されており、イングリッシュガーデンの施設は学生のアメニティ向上に資しているとともに、地域住民に公開されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 生涯学習及び子育て支援を目的として、地域に開かれた公開講座を行っており、多くの地域住民が参加している。また、幼稚園等の他の教育機関に積極的に出向き、交流を深めている。学生は幼児教育研究会を通して、様々な地域行事に積極的に参加するなど、ボランティア活動を活発に行っている。

（２）向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 退学者数を減らす目標を立て、それを実現するために各種アンケートの結果を分析し問題点を把握することが望まれる。
- 就職先からのアンケートの結果を「ほぼ良好」で終わらせずに、たとえ少数であってもそこに見られる「厳しい評価」とその内容に注目し、そこから課題を見出すことが望まれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学生生活に関する学生アンケート等の実施が見られないことから、何らかの形で学生の満足度を測ることが望ましい。

評価領域Ⅵ 研究

- 当該短期大学は、教員の学位取得や科学研究費補助金申請などを組織的に支援する体制を整えることが望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 当該短期大学全体の入学・収容定員充足率が低いので、充足率をあげるように努力されたい。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 規程及び組織を整備し、定期的に自己点検・評価を行っているが、その結果をどのようにして全教職員へフィードバックできるかが今後の課題である。自己点検・

評価活動を効果的に遂行するためにも、全教職員が評価結果を理解し、各人の立場で新たな目標に向けて努力できる環境づくりが必要である。報告書の熟読はもちろんのこと、改善策の検討等、日々の業務を通じて教職員の意識向上をどのように進めるか、学長、学科長を中心に各部門で協議を行い、全教職員に明示することが望ましい。

- 平成 16 年度以降、毎年自己点検・評価報告書を作成しているが、公表は学内のみで、外部への配布は行っていない。自己点検・評価報告書を対外的に公表することが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 財務状況は、短期大学部門及び学校法人全体の収支バランスが、平成 21 年度学校法人全体の特殊要因による収入を除き、大幅な支出超過の状態となっている。負債も多く、極めて厳しい状況にある。したがって抜本的な計画を早期に策定し、財務体質の改善を図ることが急務である。

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	否
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該学校法人の建学の精神は、「個性の伸展」という学園創立者の言葉として明確である。

教育目的は「日本国憲法、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、国家及び社会の形成者として豊かな人格の完成を目指すとともに、・・・心身ともに健全で、知的、道徳的及び創造的能力をもって幼児保育にあたる有為な人材を育成」と学則第1条に明記されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

幼稚園教諭と保育士養成の課程を持つ短期大学として、教育課程は適切に整備されており、その上で「個性の伸展」を実現し主体性を発揮するための選択科目も用意されている。

教育課程は、多くの免許・資格取得を目指したものであるもので、学生の特徴や受講動向等を考慮した体系的な教育課程の見直しを続けることが望まれる。

シラバスそのものは、統一された書式で見やすいものになっており、内容の改善も教員間の日常的な話し合いをとおして継続的に行われている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

当該短期大学の教員組織は整備されており、教育環境も整備され、活用されている。広大なイングリッシュガーデンは、他校にはない優れた教育環境である。

教員数は短期大学設置基準を充足しており、年齢構成もおおむねバランスがとれている。全教員が、意思疎通を図りつつ協力して業務を遂行している点が高く評価できる。

校地・校舎の面積は、いずれも同設置基準を充足している。講義室、実習室、体育館、授業用の機器・備品等は、必要なものが用意され整備、活用されている。

図書館の広さ、蔵書数、座席数等は、在籍学生数に比して適当である。蔵書の大部分は授業や実習にかかわる参考図書や関連図書で、学生のニーズによくこたえている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標の達成度を測定するために、試験、作品、レポート等の方法が適切に活用されている。しかし「社会奉仕演習」「海外保育事情」等は、全員「優」や全員「良」の成績評価もあり、教育目標の達成度を正確に把握することが大切である。

学生アンケートの活用を利用して、一人ひとりの学生に対するクラス担任と地区アドバイザーによる丁寧な指導が行われている。

卒業生に対する就職先からの評価アンケート、同窓会との懇談会等、就職先、卒業生からの評価を在学生の教育に生かす努力が始められている。

成績不振を主因とする退学者が 10 パーセントを超えている。教育目標を達成するために、教育内容と方法を見直し改善することが求められており、その検討が必要になっている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する支援について、入学志願者や合格者、入学手続者に対して、十分な支援が行われている。多様な選抜が取り入れられているが、受験生が混乱しないよう募集要項が整備されている。入学選抜は主に面接によって行っているが、受験生の個性・能力を総合的に評価できるよう、大学独自に「保育者カード」を開発している。

学習や科目選択のためのガイダンスは適切に行われており、加えてクラス担任及び地区アドバイザー等が適時個別指導を行っている。また、基礎学力チェックテストを実施し、基礎学力が不足している学生に対しては様々な補習で対応している。また、学習上の悩みを持つ学生には、教科担当者とクラス担任が連携を図って細やかな指導を行っている。

学生は幼児教育研究会に所属し、研究会の活動が部活動的性格を担っている。活動は学内にとらわれず、幼稚園や保育所等で公開活動や講演活動を行うほか、様々な学外公演へ参加している。学生が積極的に取り組んでいる姿勢がうかがえる。

学生生活支援体制は整備されており、特にクラス担任と地区アドバイザーによる支援は高く評価できる。

進路支援に関しては、幼児教育・保育専門の短期大学として人材を養成し、幼稚園・保育所等への高い就職率を保つことによって、社会的使命を十分に果たしている。

過去 3 年間において、留学生は入学していないが、対応するための方針や組織は確

立されている。

評価領域Ⅵ 研究

大学教員にとって、教育と研究とは車の両輪である。特定の資格取得や技能修得を目的とする短期大学では、教育活動に重きが置かれるのは当然の趨勢（すうせい）であるが、教育活動の裏付けとしての研究は、ないがしろにはできない大切な要件である。その意味において、当該短期大学の教員が教育実践に基づく研究報告を研究紀要等に発表していることは高く評価できる。

さらに、教員が学術研究や芸術活動、読書等に打ち込むことができるよう、より充実した研究環境の組織的な整備が望まれる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

生涯学習及び子育て支援を目的とし、こども文化育成、幼児教育に関する情報発信源として地域に開かれた公開講座を実施している。公開講座の内容も豊富であり、当該短期大学の専門性が生かされている。

学生は幼児教育研究活動の一環として、様々な地域活動や地域貢献、ボランティア活動を積極的に行っており、平成 5 年には国際ソロプチミストにも認められた。年間を通して「こどもの日を祝う集い」や地域のまつり、「こどもフェスティバル」等のイベントにおいて多彩なボランティア活動を行っている。

毎年、オーストラリアの保育事象を視察するため、短期留学を実施しており、単位認定もされている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会と評議員会は寄付行為に基づき必要に応じて開催され、法人としての管理運営体制は確立している。

理事長と学長との意思疎通は順調である。教授会は規程に基づいて開かれており、教員の意見は学長及び理事長が把握できる状態になっている。

事務組織は規程も整備され、少人数でありながら多様な仕事をチームワークの力でこなし、教員との協力関係も維持しており、業務は正常に遂行されている。理事長、学長と教職員の意思疎通は適切に行われ、また、教員と職員のコミュニケーションは、月 1 度の連絡会が開かれており、良好と考えられる。

評価領域Ⅸ 財務

予算の決定・執行は、適正に行われている。

当該短期大学の入学定員充足率、収容定員充足率はいずれも 70 パーセントを下回っており、財務体質の悪化に歯止めがかかっていない。現在実行中の学生募集対策等、

早期に根本的な対応が必要である。短期大学部門においては、過去 3 ヶ年支出超過となっている。学校法人全体についても、平成 21 年度の特種要因による収入を除外すると、評価対象期間中の収支は大幅に均衡を失っており、策定した財務改善計画に従って、着実に財務体質の改善に努めるとともに既定の改善計画の定着の見直しも必要である。負債償還についても、計画どおりの償還を行い、負担の早期軽減を図る必要がある。

一方、施設・設備は、おおむね整備され、その管理は適切に行われている。

評価領域 X 改革・改善

自己点検・評価を遂行する「自己評価委員会」が組織されており、自己点検・評価活動の実施体制は確立している。自己点検・評価報告書は平成 16 年から毎年 1 回発行されている。しかし、公表は学内開示のみで、外部への配布は行われておらず、早急な対応が望まれる。

当該短期大学では、教務・学生・図書・就職・入試・厚生・実習といった委員会が中心となって自己点検・評価を行っている。そのため、必然的に多くの教員がかかわり、毎年自己点検・評価報告書作成時に各委員会が 1 年間を振り返ることができ、それに基づいた反省や課題の検討ができる効率的なシステムになっている。しかし、規程及び組織を整備し定期的に自己点検・評価を行っているが、その結果をどのようにして全教職員へフィードバックできるかが今後の課題である。自己点検・評価活動を効果的に遂行するためにも、全教職員が評価結果を理解し、各人の立場で新たな目標に向けて努力できる環境づくりが必要である。報告書の熟読はもちろんのこと、改善策の検討等、日々の業務を通じて教職員の意識向上をどのように進めるか、学長、学科長を中心に各部門で協議を行い、全教職員に明示することが望ましい。